1 Fp－4

糸結びテストと他の検査方法との関連

○日景弥生*，笹倉亜希子*，川端博子**，鳴海多恵子*3
（*弘前大，**都立短大，*3東京学芸大）

目的　子ども達の手指の器用さは低下してきているといわれて久しい。われわれは，太田らによって開発された糸結びテストを手指の微細運動能力を評価する一方法と考え，それに影響を及ぼす要因等についてすでに調査し，その結果を報告した。本報では，このテストと心理学やリハビリテーション医学等の分野で実施されている他の検査方法とを比較し，その関連について検討した。

方法　被験者は青森県内の小学校５・６年生男女計 120名である。被験者全員に糸結びテストと，他の分野で行われている検査の中で手指の微細運動能力を測定すると考えられる検査（一般職業適性検査から４項目，ＢＯＴから７項目，ＦＱテスト７項目，豆移しテスト，目測テストの計20項目）を実施し，糸結びテストとこれらのテストとの関連を分析した。

結果　糸結びテストの結び目の平均は約８個で，最小０個から最大19個までと個人差が大きかった。その成績をもとに，上位群，中位群，下位群に分類し，上位群と下位群で比較した。その結果，ほとんどの検査において，上位群が下位群の成績を上回った。両群で相関が高かったものは，リング挿し検査，ペグ移しテスト，ビーズ通しテスト，点打ちテスト，たて線引きテスト，格子模様検査の６項目であった。

これより，糸結びテストはこれらの検査と関連があることが示唆された。